

# 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

京都市立大宮小学校  
校長 谷本 史朗

4月17日に、本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語科、算数科、理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

## 国語科より

国語は全国平均・京都府平均ともに上回っていました。学習指導要領の領域で見ても、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全てで全国平均を上回りました。評価の観点で見ても、「知識・技能」「思考・判断・表現」の全てで全国平均を上回りました。

「図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」はよくできていました。「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる問題」「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」に課題が見られました。文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識することが重要です。また、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められます。

## 算数科より

算数は全国平均・京都府平均ともに上回っていました。学習指導要領の領域で見ても、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データと活用」の全てで全国平均を上回りました。評価の観点で見ても、「知識・技能」「思考・判断・表現」の全てで全国平均を上回りました。

「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題」はよくできていました。「分数のたし算について、共通する分母の数を見だし、たす数とたされる数が、共通する分母の数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」に課題が見られました。異分母の分数のたし算・ひき算の計算ができること、分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えることを身につける必要があります。

「目的に応じて適切なグラフを選択して増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題」にも課題が見られました。様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切です。

いずれにしても、身につけるべき事項を理解したうえで、考えの理由を数や言葉を用いて表現できること、記述できることが求められます。

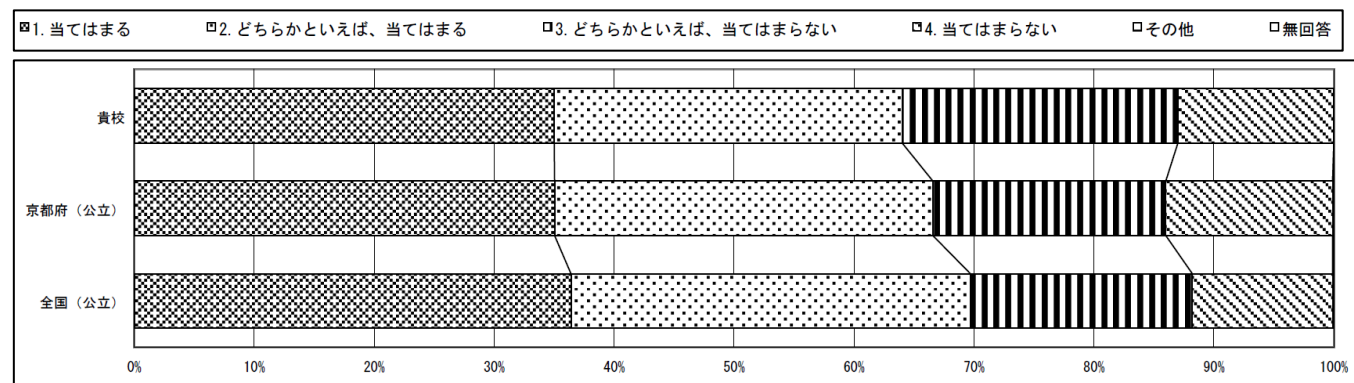
## 理科より

理科は全国平均・京都府平均ともに上回っていました。学習指導要領の領域で見ても、「エネルギーを柱とする領域」「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」の全てで全国平均を上回りました。評価の観点で見ても、「知識・技能」「思考・判断・表現」の全てで全国平均を上回りました。

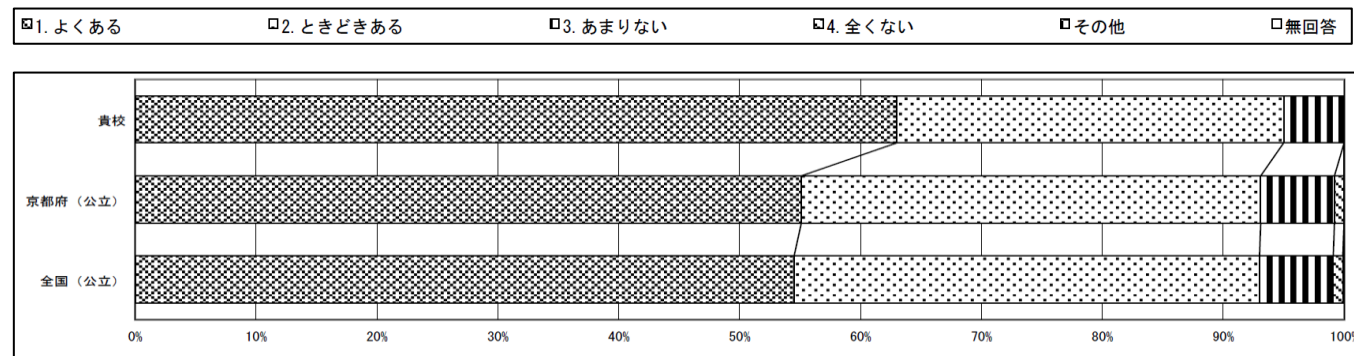
「花のつくりや受粉」に関する問題は、よくできていました。「電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解」に課題が見られました。「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題」の正答率が低かったです。問題解決や科学的な探究のプロセスを通して、学習を通して身に付けた知識を、活用することができる力が求められています。ものづくりの活動では、解決したい問題を見いだすことや、学習を通して得た知識を活用して、理解を深めることが大切です。また、明確な目的を設定し、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正する活動の充実を図り、学んだことの意義を実感することが重要です。

## 児童質問紙調査から

読書は好きですか。



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



## 全体を通した本校の成果と課題



本校では、「自ら学び、考え、行動する子の育成～人とつながり、未来を創造する力を身につけるために～」という学校教育目標のもと、保護者や地域の皆様のご理解・ご協力のもと、教職員一丸となって取組を進めています。

全国平均・京都府平均と比べ、国語科、算数科、理科において、一定の成果を上げることができました。学習に対する興味・関心に対しては、理科は高い傾向がありますが、国語科・算数科においてはやや低くなっています。意欲的に学ぶ姿を求めるために、子ども自ら生まれた学習のめあてを明確にし、主体的な学びをすすめ、身に付いた力を振り返る活動を大切に、わかる喜びと学ぶ楽しさを実感できるようにしたいと思います。

また、「児童質問紙調査」の、「読書は好きですか」という質問に対し、京都府・全国より低い結果となりました。学力調査を通して様々な情報を関連付けて読み、考えを構築する力が求められていることから、読書は大切であると考えます。学校図書充実を図るとともに、各教科の学習で、本や各種資料を用いて調べて見つける楽しさ、発見する喜びを味わうことができるよう、学習を工夫したいと思います。一方、ウェルビーイングの視点で、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」という質問に対し、京都府・全国と比べて「よくある」という答えの数値が高い結果となりました。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」「将来の夢や目標を持っているか」「学校行くのは楽しいと思うか」という問いの答えが京都府・全国と比べて高く、子どもたちと教職員、まわりの大人とのよい信頼関係が築けているのではないかと思います。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「友達関係に満足していますか」という問いでは、京都府・全国と比べると低くなっていることから、他者との関わりに十分に自信をもつことができている姿もうかがえます。毎日の学習活動や生活の中で、また、行事や人権学習等を通して、友だちや周りの人とよい関係を作る力をつけることができるようにしたいと思います。そして、楽しい学校生活を送ることを通して、大勢の中の自分の存在を実感し、仲間と共に活動するよさを味わうことができるよう、一つ一つの活動を大切に、一人一人の子どもを支え励ましたいと思います。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が基盤となります。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。